



夢前川を挟んで東の下手野、西の青山の両地域は、若き黒田官兵衛が二度にわたる激烈な戦いののち勝利をおさめ一躍勇名をほせた地。



1 夢前川から望む土器山遠景



2 下手野の道標



3 常夜燈



4 青山道標



5 めずらしい狛犬



西国街道



西国街道



7 青山製紙組合碑



5 稲岡神社



6 宗全寺跡



5 稲岡神社・金刀比羅社



8 青山古戦場跡





夢前川を挟んで東の下手野、西の青山の両地域は、若き黒田官兵衛が激烈な戦いのち勝利をおさめ一躍勇名をはせた地。

青山へのアクセス

- 姫路駅から神姫バスで「日赤病院前」方面行き「下手野」下車。所要時間約 13分 200円。
- JR姫新線で「津山」方面行き「播磨高岡」下車。所要時間約 4分 180円。



家督相続したばかりの23歳の官兵衛は光姫を娶ってちょうど2年のころ、婚姻の引出物として櫛橋家よりもらった「赤合子」をかぶっての初陣で勝利! 世に「如水の赤合子」の名がとどろくことになりました。

土器山は宗全寺の瓦を焼いたことから名前がついたそうです

1 土器山 青山合戦陣地跡
麓からならかな山道を約10分歩くと陣地跡の頂上につきますが、ここが青山の合戦で官兵衛が陣を構えたところです。西3km 先には龍野から赤松政秀の軍勢が押し寄せた桜峠が望め、振り返ると4kmの東方に姫路城が望めます。

2 下手野の道標
法然上人の生誕地、岡山県美作にある誕生寺への道標。「右第一番みまさか誕生寺道左たつの道」と記されています。かつてこの場所は川西の青山と同様に街道の分岐点で、付近には宿場もありました。

3 常夜燈
夢前川東岸の下手野には川会所と呼ばれる藩の役所があり往時には9軒の宿があったそう。この常夜燈は渡し場のあった堤防におかれたもので文政10年(1827)の年号が刻まれています。

4 青山の道標
夢前川西岸の青山は山陽道(西国街道)と因幡街道の分岐点で交通のななめでした。この道標は「右因州伯州作州雲州往来」と山陰の国々を、また「左備前九州金毘羅宮嶋往来」と山陽から九州を指し示し、また「すぐ姫路大坂京江戸往還」と遠く江戸の名までも記されています。安政2年(1855)の建立で字体も美しく価値の高いもの。市重要文化財指定。

5 稲岡神社
稲岡山は播磨国風土記に稲牟礼の丘との記述があり神域で、青山の地名の起こりとなった場所。その南麓にこの神社があり、鎮守の森としての姿を美しく保っています。拝殿、絵馬堂にある江戸中期以降の絵馬や石造狛犬も、文化財的価値が高く見ごたえ十分。

6 宗全寺跡
応仁の乱で有名な山名宗全は嘉吉の乱後、播磨を領有し青山に住んだといわれ、街道の民家裏にあるこの薬師堂のあたりは、彼が菩提寺として建てた宗全寺跡といわれています。

7 青山製紙組合の碑
明治中期から大正にかけてこの地で和紙の製造が盛んだった頃に功労者を顕彰して建てられたもの、「いたつきを積める功は此の紙の雪の表に顕れにけり」という和歌が刻まれています。

8 青山古戦場跡
官兵衛が初めて指揮し、龍野城主赤松政秀の軍勢を撃退した永禄12年(1569)の古戦場。敵兵3000に対して300の兵で奇襲をかけた勝利した。藤棚のかたわらの石碑が歴史を伝えます。

西国街道
姫路城下を東西に貫くこの街道は山陽道とも呼ばれ江戸時代の主要な街道のひとつであり、往時には参勤交代の大名や旅人の通行でにぎわいました。明治以降は鉄道や国道2号線が整備され、昔の街道筋は忘れられようとしていますが、現代でもあちこちに古き良き時代の面影を見つけ出すことができる道です。

青山交通 079-267-5678
青山タクシー 079-266-0015
高岡タクシー 0120-840-818

ほかのよつぐだんコースへ
コースNo.21 英賀 タクシーで約6.5km (料金目安 2,300円) みどころ/英賀城址、広畑天満宮
コースNo.20 書写 タクシーで約6.5km (料金目安 2,300円) みどころ/書写山円教寺
ロープウェイ山麓駅まで

ちょっとお勉強。

青山・土器山の合戦のお話
青山・土器山の合戦があったのは黒田官兵衛が家督を継いで間もない124歳の永禄12年(1569)のこと。官兵衛が仕える小寺政職(御着城)と対立する赤松政秀(龍野城)が3000の兵を率いて官兵衛の姫路城へ攻撃を仕掛けてきました。このとき官兵衛の手勢はわずか300、それでも先手をとって城の西4キロの青山で奇襲を仕掛け敵を撃退。ところが、翌6月にまたもや赤松が攻め入り、これに対して官兵衛は土器山に陣をはり対抗しました。不覚にも夜襲の先手を受け大きな被害を受けますが、相手が油断をしているその夜に逆襲。敵を敗走させました。この二度の奇略に満ちた勝ち戦により、官兵衛の存在が大きく知られることになったそうです。

青山の戦いと千石池
青山の戦いで戦死した首を洗い、池の水が朱く染まったといわれ、以来人々は千石池を戦国池というようになったと伝えられています。